

令和4年度 教育研究業績書

氏名 木田 隆文

| | | |
|---------------------|--|--|
| 最終学歴 | 龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程日本語日本文学専攻 修了 | |
| 取得学位 | 博士（文学） | |
| 所属学会 | 日本近代文学会 昭和文学会 日本文学協会 阪神近代文学会 龍谷大学国文学会 | |
| 専門分野 | 日本近代文学 | |
| 研究課題 | 武田泰淳を中心とする昭和期の文学／戦時下中支地域における日本文学と文化 | |
| 授業科目 | 学部担当科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・言語・文学Ⅰ（六）・同Ⅱ（六） ・基礎演習Ⅱ ・国文学講読Ⅰ（八）・同Ⅱ（八） ・国文学演習Ⅰ（七）・Ⅱ（七）・Ⅲ（八）・Ⅳ（八） ・卒業論文 ・現代文学論 ・メディア文化論／メディア学 ・近代文学概論Ⅱ |
| | 大学院修士課程担当科目 （博士前期課程含） | <ul style="list-style-type: none"> ・現代文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ・近代文学論特殊講義（基礎）・同（応用） ・表象文化論 ・現代文学特論 ・メディア文化特論 |
| | 大学院博士後期課程担当科目 | |
| | 通信教育部担当科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代文学論 |
| 【研究上の特記事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省科学研究費（基盤C）「戦後日本における上海邦人文芸文化ネットワークの移植と展開」研究代表者 ・文部科学省科学研究費（国際共同研究強化B）「戦時下の北京・上海及び周辺都市における日本語出版物と文芸文化ネットワークの研究」研究分担者 ・東京女子大学比較文化研究所国際共同研究研究員（日本側学外研究員） ・日本統治下上海で刊行された日本語文芸雑誌『上海文学』の復刻を琥珀書房より出版。その刊行の研究的・社会的意義を各学会誌および『日本経済新聞』等のメディアで報告した。 | |
| 【教育上の特記事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・国文学科の初年次教育の運営と工夫に注力した。 ・学科教務委員として学生個々の就学上の問題や課題に寄り添った。 ・国文学科学生の研究的視点の拡大のために課外学習や特別講義を実施した。 ・教員を目指す国文学科学生のために教職懇談会を実施した。 | |
| 【社会的活動】 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本近代文学会評議員 ・昭和文学会幹事 ・『関西近代文学』編集委員（日本近代文学会関西支部） ・『阪神近代文学』編集委員（阪神近代文学会） ・龍谷大学国文学会副理事長 ・公開講座講師（奈良大学学友会関東支部、高の原カルチャーサロン等） | |
| 【学内活動】 （学内職歴を含む） | <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会委員 ・ICT教育推進プロジェクトチーム委員 ・通信教育部委員 ・大学院委員会委員 ・奈良大学教育職員親睦会委員 | |

| 研究業績[著書、学術論文等] | | | | |
|---|---------|-----------|---|--|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著、共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| (著書) | | | | |
| ①上海文学 復刻版 | 共著 | 2022年7月 | 琥珀書房 | 日本統治下上海で出版された日本語文学雑誌『上海文学』の復刻版。原本を復刻した本体に、解説・目次等を収録した「別冊」を付した。 |
| (学術論文) | | | | |
| ①よみがえる大陸文壇—池田克己と上海文学研究会 | 単著 | 2022年7月 | 『上海文学 復刻版』 「別冊」 (琥珀書房) | 同復刻版の解説。『上海文学』の中心的同人であった池田克己の活動を通して、同誌の文芸活動の実態と戦時上海の文芸文化状況を検討した。 |
| ②旅順—帝国の〈聖地〉 | 単著 | 2022年9月 | 『中国の都市の歴史的記憶 一九世紀後半～二〇世紀前半の日本語表象』 (勉誠出版) | 近代日本の旅順表象の特質とその背景を、同地の戦跡観光開発から検討したもの。 |
| (学会発表) | | | | |
| ①帝国を巡礼する—〈聖地〉旅順の観光とその表象 | 単独 | 2022年7月 | 国際共同研究シンポジウム 近代日本の中国都市体験 (2) —旅行案内・旅順・大連・北京 | 近代日本の旅順表象の特質とその背景を、同地の戦跡観光開発から検討したもの。 |
| ②外地文芸文化資料の保存と共有—地理情報システム援用による「集合知」の可能性と課題 | 単独 | 2022年11月 | ワークショップ・東アジアにおける日本近代文学の越境 (清華大学・在華日中国文学資料研究会共催) | 外地文芸資料の保存と共有に、地理情報システムを活用することを提案した。 |
| ③汪兆銘政権下の日本語文学—『上海文学』とその周囲 | 単独 | 2023年2月 | 第27回中国モダニズム研究会 | 『上海文学』に復刻とその意義、今後の研究的展望について報告した。 |
| (その他) | | | | |
| ①滋賀県 | 単著 | 2022年6月 | 『占領期の地方総合文芸雑誌事典』下巻 (金沢文圃閣) | 占領期滋賀における雑誌出版状況をまとめたもの。 |
| ②奈良の風景25 吉野—現代詩の源流 | 単著 | 2022年10月 | 『Imajin21』 Vol. 44 | 戦前期の吉野における文芸出版活動について言及したもの。 |
| ③「上海文学」光と影の出版史 | 単著 | 2023年1月 | 『日本経済新聞』 2023年1月20日 (朝刊) | 同紙「文化」欄への寄稿記事。『上海文学』の復刻をめぐる経緯とその研究的・社会的意義について述べたもの。 |
| ④映画の都・奈良—あやめ池撮影所めぐって | 単独 | 2022年8月 | 高の原カルチャーサロン 近代奈良の残像—文学と地理学から | 戦前期奈良の映画環境について、あやめ池撮影所の活動を軸に紹介した。 |
| ⑤海の彼方の日本語文学 | 単独 | 2023年2月 | 奈良大学学友会関東支部 | 戦時期中国の各都市で日本人が行った文芸文化活動の実態を紹介した。 |